

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107・207	高等学校	国語科	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	文国 183-901	高等学校 改訂版 文学国語		

1. 編修の基本方針

1. 近現代のすぐれた文学的な文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 人間・生命・戦争などに目を向けさせ、それらが我が国の伝統と文化の中でどのように表現されてきたかを知ることができるように配慮した。
5. 歴史的・文化的背景を踏まえて国語文化を捉え、生徒一人一人がその伝統の担い手であることを自覚させることを期した。

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 I 部	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した(第1号)。 ・詩・短歌・俳句の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した(第1号)。 ・「作者解説」「文学のしるべ」「小説読解の視点」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書に誘うようにした(第1号)。 	<p>p. 14～p. 20 p. 28～p. 41 p. 47～p. 60</p> <p>p. 64～p. 65 p. 66～p. 67 p. 69～p. 70 p. 72～p. 76 p. 78～p. 85</p> <p>p. 46 p. 61 p. 62 p. 68 p. 71 p. 77 p. 103 p. 115 p. 116 p. 175 p. 176 p. 177 p. 231 p. 232</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・自主・自律、労働などについて考察した題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した(第2号)。 ・「読み比べ」や「創作」の言語活動を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした(第2号)。 	<p>p. 21～p. 26</p> <p>p. 42～p. 45 p. 86～p. 90 p. 117～p. 122 p. 133～p. 137 p. 178～p. 180 p. 189～p. 193 p. 215～p. 230</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わり、社会の有り様などに深く関わる題材を採録し、生徒が人間関係や社会について考えを深め、異なる意見を尊重する態度を身につけられるよう考慮した(第3号)。 	<p>p. 92～p. 102 p. 104～p. 114</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命のあり方やその尊さなどについて述べた題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した(第4号)。 	<p>p. 72～p. 76 p. 146～p. 174</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 我が国や他国の文化・芸術、文化の伝承などに深く関わる題材を採録し、我が国の伝統と文化に対する理解を深めるとともに、興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。 	<p>p. 78～p. 85 p. 86～p. 90</p> <p>p. 124～p. 132 p. 133～p. 137</p> <p>p. 138～p. 144 p. 182～p. 188</p> <p>p. 189～p. 193 p. 194～p. 200</p> <p>p. 202～p. 214 p. 215～p. 230</p>
第Ⅱ部	<ul style="list-style-type: none"> 真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。 詩の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した（第1号）。 「作者解説」「文学のしるべ」「小説読解の視点」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書に誘うようにした（第1号）。 	<p>p. 248～p. 257 p. 290～p. 298</p> <p>p. 258～p. 259 p. 302～p. 308</p> <p>p. 354～p. 360 p. 411～p. 420</p> <p>p. 260 p. 273 p. 274 p. 289</p> <p>p. 299 p. 300 p. 350 p. 351</p> <p>p. 352 p. 389 p. 410 p. 434</p> <p>p. 435 p. 449 p. 450 p. 451</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値や能力、職業について考察した題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第2号）。 「読み比べ」や「創作」の言語活動を通して、主体性を発揮して創造的な課題に取り組めるようにした（第2号）。 	<p>p. 239～p. 246</p> <p>p. 258～p. 259 p. 452～p. 456</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わり、多様な価値観などに深く関わる題材を採録し、生徒が自身と異なる意見を尊重する態度を身につけられるよう考慮した（第3号）。 	<p>p. 261～p. 272 p. 276～p. 288</p> <p>p. 306～p. 308</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 生命のあり方やその尊さ、戦争などについて述べた題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が倫理・道徳の問題を現実的に即して考察できるよう配慮した（第4号）。 	<p>p. 310～p. 349 p. 372～p. 388</p> <p>p. 390～p. 409 p. 411～p. 420</p> <p>p. 422～p. 433 p. 436～p. 448</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に深く関わる題材を採録し、外国との関係や歴史的背景などを踏まえて、我が国の言語文化に対する理解を深められるようにした（第5号）。 現代の戦争を扱った題材を採録して、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮した。（第5号） 	<p>p. 234～p. 238 p. 436～p. 448</p> <p>p. 452～p. 456</p> <p>p. 361～p. 370 p. 372～p. 388</p> <p>p. 418～p. 420</p>
	資料編・巻末口絵	<ul style="list-style-type: none"> 「近現代文学史の概観」「学校系統図」「参考図録」を用意し、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、我が国や他国の言語文化に対する興味・関心を喚起できるように配慮した（第1号・第5号）。

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材の最後に「学習の手引き」「言語活動の手引き」「言葉の手引き」といった課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- 書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-207	高等学校	国語科	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	文国 183-901	高等学校 改訂版 文学国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・「現代の国語」および「言語文化」で育成された資質・能力をさらに推し進め、深く共感したり豊かに想像したりする力や、創造的に考える力を伸ばすために、書いたり読んだりする資質・能力を伸ばすための学びと、我が国の言語文化に対する理解を深めるための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるよう考慮して、全体を二部で構成し、各部分は文種（ジャンル）を基本にした単元構成とした。
- ・「B 読むこと」の教材として、近代以降の小説、詩歌、随想、評論を取り上げた。また、「A 書くこと」の教材として、「創作」に特化した教材を用意した。
- ・教材の選定にあたっては、生徒の発達段階に配慮して、高校生として知っておくべき評価の定まった作品から厳選することを旨とした。
- ・単元の扉に、それぞれの教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・作品の中で押さえておくべき熟語、慣用句、四字熟語等を「注意すべき語句」として脚注の左に示し、必要な語句を効果的に学習できるよう配慮した。
- ・「言葉の手引き」を設定して、「B 読むこと」の内容と関連づけながら、漢字・語句・表現・修辞等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・作品ごとに「作者解説」を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図るとともに、小説に関しては「文学のしるべ」を設け、読書の幅を広げることができるように意図した。
- ・小説単元に「小説読解の視点」、すべての詩の後に「コラム」を用意し、小説や詩に対する理解が深められるようにした。
- ・巻末に「資料編」「参考図録」を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。

③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 書くこと」に関しては、言語活動として「創作」に特化した教材を用意し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、文学的な文章や独創的な文章を書く能力を育成することを旨とした。
- ・「B 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「言語活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
 - ＊「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所、内容理解を確認する目的で示した。
 - ＊「学習の手引き」は、文章全体の構成や展開の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈、文体の特徴や表現技法の理解という、基本的に三つの事柄を行うことを主旨として設定した。
 - ＊「言語活動の手引き」は、本文を学習した後に得た、自分の解釈や見解をもとにして、文章を書いたり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる言語活動を行うことを主旨として設定した。
- ・「言語活動の手引き」とは別に、「B 読むこと」の言語活動として、教材と関連する別の文章を取り上げてさまざまな観点から比較を行う、「読み比べ」教材を用意した。

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容						該当箇所	配当時数		
			知識及び技能		思考力・表現力・判断力等					書くこと	読むこと	計
部	単元	教材	(1)	(2)	書くこと(1)	書くこと(2)	読むこと(1)	読むこと(2)				
第Ⅰ部	1 随想・評論(一) なぜ書くのか	生きるとは、自分の物語をつくること	イ・ウ・エ	イ	イ		ア・カ	ア	p.14-p.20	1	2	3
		わからないからおもしろい	イ・ウ・エ		イ		ア・エ・カ	ア	p.21-p.26	1	2	3
	2 小説(一)	山月記	イ・ウ・エ	ア	ア・イ・ウ	イ	ア・イ・ウ・オ・カ	ア・ウ	p.28-p.41	1	3	4
		[読み比べ]人虎伝					ア・イ・ウ・オ	ア	p.42-p.45		1	1
		[文学のしるべ]		イ					p.46			
		旅する本	イ・ウ・エ	ア	ア・イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.47-p.60	1	3	4
		[文学のしるべ]		イ					p.61			
		[小説読解の視点①]	ウ						p.62			
	3 詩・短歌・俳句	詩歌を豊かに鑑賞するために	ウ						p.64-p.65			
		小諸なる古城のほとり	ウ・エ	ア・イ			ア・イ・エ・カ	ア	p.66-p.68		1	1
		風船乗りの夢	ウ・エ	ア・イ			ア・イ・エ・カ	ア	p.69-p.71		1	1
		永訣の朝	ウ・エ	ア・イ			ア・イ・エ・カ	ア	p.72-p.77		2	2
		短歌と俳句	ウ・エ	ア			ア・イ・オ・カ・キ	オ	p.78-p.85		2	2
		[創作]テーマを決めて短歌・俳句を作る	ア・エ		ア・イ・ウ・エ	ア・エ		オ	p.86-p.90	3		3
	4 小説(二)	孫係	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・カ	ア	p.92-p.102	1	3	4
		[文学のしるべ]		イ					p.103			
		山椒魚	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.104-p.114	1	3	4
		[文学のしるべ]		イ					p.115			
		[小説読解の視点②]	ウ						p.116			
		[創作]物語を創造する 物語を発現する力			ア・イ・ウ・エ	ア			p.117-p.122	2		2
5 評論・随想(二) 芸術との出会い	真珠の耳飾りの少女	イ・ウ・エ		イ		ア・イ・エ・カ・キ	ア	p.124-p.132	1	2	3	
	[読み比べ]フェルメールの技を読む			イ		ア・カ・キ	ア・イ・カ	p.133-p.137	1	1	2	
	花のいざない	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・オ・カ	ア	p.138-p.144	1	2	3	
6 小説(三)	こころ	イ・ウ・エ	ア	ア・イ・エ	ア・イ	ア・イ・オ・カ	ア・ウ	p.146-p.175	1	7	8	
	[文学のしるべ]		イ					p.176				
	[小説読解の視点③]	ウ						p.177				
	[創作]小説の一場面を脚本化する	ア・エ		ア・イ・ウ・エ	ア・イ		ウ	p.178-p.180	2		2	
7 随想・評論(三) 日本文化の特徴	陰影という名の自由	イ・ウ・エ	ア			ア・ウ・オ・カ	ア	p.182-p.188		2	2	
	[読み比べ]陰翳礼讃	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・ウ・オ・カ	ア・イ	p.189-p.193	1	2	3	
	句を切る	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア・イ	p.194-p.200	1	2	3	
8 小説(四)	富嶽百景	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・ウ・オ・カ	ア・カ	p.202-p.214	1	3	4	
	[読み比べ]富嶽百景	イ・ウ・エ	ア			ア・イ・ウ・エ・オ・カ	ア	p.215-p.230		3	3	
	[文学のしるべ]		イ					p.231				
	[小説読解の視点④]	ウ						p.232				
第Ⅱ部	1 随想・評論(一) 日本語へのまなざし	ゆずる物腰ものほしげ	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・カ	ア	p.234-p.238	1	2	3
		日本語籍を取得した日	イ・ウ・エ	ア	イ・エ		ア・イ・カ	ア・カ	p.239-p.246	1	2	3
	2 小説(一)	檸檬	イ・ウ・エ	ア			ア・イ・ウ・エ・オ・カ	ア	p.248-p.257		3	3
		[読み比べ]秘やかな楽しみ		ア	イ		ア・ウ・オ	ア	p.258-p.259	1	1	2
		[文学のしるべ]		イ					p.260			
		冷たい大根の煮物	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.261-p.272	1	3	4
		[文学のしるべ]		イ					p.273			
		[小説読解の視点⑤]	ウ					p.274				
	3 小説(二)	骰子の七の目	イ・ウ・エ	ア	ア・イ・エ	ア・イ	ア・イ・エ・カ	ア・ウ	p.276-p.288	1	4	5
		[文学のしるべ]		イ					p.289			
		棒	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.290-p.298	1	4	5
		[文学のしるべ]		イ					p.299			
		[小説読解の視点⑥]	ウ						p.300			
	4 詩	のちのおもひに	ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.302-p.303	1	1	2
		足と心	ウ・エ	ア			ア・イ・エ・カ	ア	p.304-p.305		1	1
		ちがう人間ですよ	ウ・エ	ア			ア・イ・エ・カ	ア	p.306-p.308		1	1
	5 小説(三)	舞姫	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・オ・カ	ア・カ	p.310-p.350	1	8	9
		[文学のしるべ]		イ					p.351			
		[小説読解の視点⑦]	ウ						p.352			
	6 随想・評論(二) 文学はなぜ必要か	もしも、詩があったら	イ・ウ・エ	ア	イ・ウ		ア・イ・カ	ア	p.354-p.360	1	2	3
祈りとしての文学		イ・ウ・エ	イ			ア・オ・カ	ア・カ	p.361-p.370		3	3	
7 戦争と文学	バグダッドの靴磨き	イ・ウ・エ	ア	ア・イ・エ	ア・イ	ア・イ・オ・カ・キ	ア・ウ	p.372-p.388	1	4	5	
	[文学のしるべ]		イ					p.389				
	夏の花	イ・ウ・エ	ア			ア・イ・オ・カ・キ	ア	p.390-p.409		5	5	
	[文学のしるべ]		イ					p.410				
	死んだ男の残したものは	ウ・エ	ア			ア・イ・エ・オ・カ・キ	ア	p.411-p.413		1	1	
	わたしが一番きれいだったとき	ウ・エ	ア			ア・イ・エ・オ・カ・キ	ア	p.414-p.417		1	1	
	春ーイラクの少女シャミラに	ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・オ・カ・キ	ア	p.418-p.420	1	1	2	
8 小説(四)	葉桜と魔笛	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.422-p.434	1	4	5	
	[文学のしるべ]		イ					p.435				
	枯野抄	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア・カ	p.436-p.449	1	5	6	
	[文学のしるべ]		イ					p.450				
	[小説読解の視点⑧]	ウ						p.451				
	[創作]古典を基にして物語を作る			ア・イ・ウ・エ	ア・ウ			p.452-p.456	4		4	
										37	103	140